

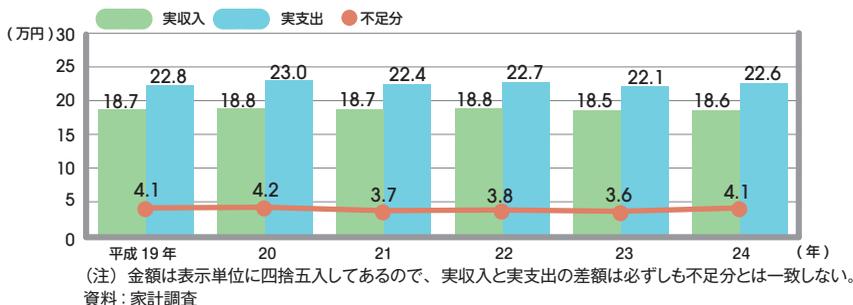


・高齢無職世帯の家計収支は1か月当たり4万1千円の赤字

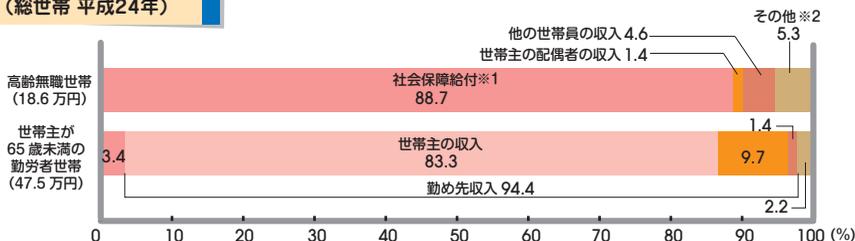
・実収入は勤労者世帯で「勤め先収入」、 高齢無職世帯では「社会保障給付」が最も高い

二人以上の世帯と単身世帯を合わせた総世帯のうち、世帯主が高齢者(65歳以上)の無職世帯(以下「高齢無職世帯」といいます。)の平成24年の1世帯当たり1か月間の家計収支をみると、いわゆる税込収入である実収入は、前年に比べ1千円増加し、18万6千円となりました。一方、生活費などの消費支出と税金などの非消費支出を合わせた実支出は、新たなエコカー補助金制度などにより自動車購入を含む交通・通信や、寒冬・猛暑による冷暖房需要や前年の節電の反動などにより光熱・水道などが増加したことから、前年に比べ5千円増加し、22万6千円となりました。その結果、家計収支は4万1千円の赤字となり、不足分は預貯金などの金融資産の取崩しなどで賄われています。なお、実収入の構成比をみると、世帯主が65歳未満の勤労者世帯では約8割が世帯主の勤め先収入であるのに対し、高齢無職世帯では約9割が公的年金などの社会保障給付となっています。

高齢無職世帯の実収入及び実支出の推移 (総世帯 平成19年～24年)



実収入の構成 (総世帯 平成24年)



※1 社会保障給付とは、公的年金給付、失業給付など法律により支給される各種の社会保障的性格を有する給付金。

※2 その他には、家賃収入や利子、仕送り金を受取などが含まれる。
(注) 構成比は、表示単位に四捨五入してあるので、内訳の計は必ずしも合計に一致しない。

資料：家計調査

